第６７回原子力委員会 資　料　第　３　号

第６５回原子力委員会臨時会議議事録（案）

１．日　時　　２０００年１０月２０日（金）１０：３０～１１：３０

２．場　所　　委員会会議室

３．出席者　　藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
　　中澤局長
　　原子力局
　　核燃料課　植村補佐
　　廃棄物政策課　渡辺補佐
　　原子力調査室　伊藤室長、千原補佐、山越、木村、会沢
　　吉舗専門委員

４．議　題
（１）「ご意見をきく会」の結果について
（２）藤家原子力委員長代理の出張報告について
（３）その他

５．配布資料
資料１　　「ご意見をきく会」の結果について
資料２　　藤家原子力委員長代理の出張報告について
資料３　　第６４回原子力委員会定例会議議事録（案）
席上資料　「深地層研究所(仮称)計画」の北海道による受け入れ表明について

６．審議事項
（１）「ご意見をきく会」の結果について
標記の件について、原子力調査室より資料１に基づき説明があった。これに対し、
別途実施している意見募集について、従来にはない視点でのご意見はあるか。
（原子力調査室）パブリックコメントで寄せられた意見は、まだ整理中であるが、「ご意見をきく会」で出された意見に概ね集約されていると思う。また、原子力政策円卓会議で出た意見の広がりともほぼ一致していると考えている。

「ご意見をきく会」で出された意見と意見募集で寄せられた意見については、今後策定会議の場で長期計画案にどう反映するか検討が行われることになるのか。

（原子力調査室）その通りである。８月に開催された策定会議においても、今後の予定としてパブリックコメントが終わった段階で、策定会議を開催しその扱いを審議することとしていた。どういった審議をするかについては、座長に相談する必要があるが、既に原子力委員会の他の専門部会でパブリックコメントに対する審議が行われており、そのような例に沿って審議頂くことになると思う。

寄せられた意見については、どのように処理する予定なのか。具体的に意見をどう反映し、審議のプロセスはどうであったか等、策定会議側からどのようなレスポンスをするのか。

（原子力調査室）その点については、策定会議でも議論の対象になると思うが、意見一通、一通に対する回答ではなく、いくつかのグループに意見を分類した上で、策定会議で審議頂くことになると思う。その審議の結果がなんらかの形で、意見をお寄せ頂いた方に届くようにするのも一案ではないか。

具体的な内容までは不要だと思うが、結果についてお知らせした方が良いと思う。

原子力委員会としては、昨年５月の段階で原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画の策定について見解を出しているが、寄せられた意見との関連について整理してみることも重要だと思う。

コメントを聞いてみると、今回の長期計画が目指したことがあまり浸透していなかったという感じがした。すなわち、従来までのタイムスケジュール優先のものが長期計画と考えられていたと思う。まさに、全体像と長期展望に焦点を絞ったのが今回の長期計画であったが、これは最初のステップでもあるので、今後ともそういった方向に対し理解して頂けるよう努力していきたい。「ご意見をきく会」により、意見のスペクトルの広がりが見え、多くのご意見が、ほぼ予期された範囲にあるとの感じをもった。

等の質疑応答及び委員の意見がり、本件は了承された。

（２）藤家原子力委員長代理の出張報告について

標記の件について、核燃料課及び原子力調査室より資料２に基づき説明があった。これに対し、

原子力委員会と米国エネルギー省（ＤＯＥ）、あるいは原子力委員会と仏国原子力庁（ＣＥＡ）において、原子力政策についての意見交換の場を定期的に持つことが重要であると感じた。

米国社会の原子力に対する見込みについて、どのように考えているか。

既存の原子力発電所の運転効率がよく経済性が高いため、原子力に対する見方がポジティブになっている。また、寿命延長もかなり具体的に進み始めている。一方、ここ数年で、ＮＥＲＩやＧＥＮ－Ⅳ等のようにＤＯＥの扱う研究分野が変わってきたとの印象を持っている。ただし、新規の原子力発電所の建設については、まだ見えない状況にある。

また、米国政府との関係でみると、民主党、共和党どちらが政権をとっても、核不拡散への圧力が増すのは確実という印象を持っている。

会議の中で、原子力について、環境論の観点からの発言はなかったのか。

欧州に比べれば、炭酸ガスの削減に原子力が貢献できると考えられていると思うが、具体的な変化が見えるほどではないと思う。

プルトニム２４４の保障措置への応用に係わる技術協力については、どのような話があったのか。

例えば核戦略物質の検出に使用できるのではないかとのことであった。

核不拡散のために努力することには賛成であるが、米国は自国の解体核は棚に上げておいて、非核兵器国に対しては、アメリシウムをチェックするようなことをやりかねないので、発言者のバックグランド等も含め注意が必要である。

原子力発電の運転効率が高く、うまくいっている一方で、電力不足の問題や電力自由化がうまくいっていないといった背景があるなかで、原子力に対する一般国民の反応や感触をＤＯＥは掴んでいるのか。

ＤＯＥの役人が、その辺についてセンシティブにものを見ているとは思えない。むしろサンタフェーセミナーで発言した原子力エネルギー協会(ＮＥＩ)などは、そういった点について正確に把握しているとの印象を持った。

ＤＯＥとの協議において、国際地層処分システム協力センター(ＩＣＧＲＳ)について説明があったとのことであるが、日本に対して具体的な話があったのか。

本件についても、注意が必要である。

(核燃料課)具体的に何か提案があったということはなく、一般的な説明であった。

(廃棄物政策課)本件については、詳細な情報は掴んでいない。

ＤＯＥとの協議全体を通して、日本としては話が具体化してから提案をされても困るということを主張した。テーマによってはその場では議論が進まないものも多くあったので、そういうものに対しては、一度持ち帰ることとし、その場で何らかのレスポンスをするというやり方をしなかった。

等の質疑応答及び委員の意見あがった。

（３）その他

その他の議題として、「深地層研究所(仮称)計画」の北海道による受け入れ表明について、廃棄物政策課より席上資料に基づき説明があった。これに対し、

本件については、研究施設であるという事実を受け止めて冷静に対応して頂いている方々もいるという印象を持っていた。

一つステップが進んだという感じがするが、まだまだ先の長い問題であるので、今後とも努力が必要。

等の委員の意見あがった。

（４）議事録の確認

事務局作成の資料３第６４回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。

以上